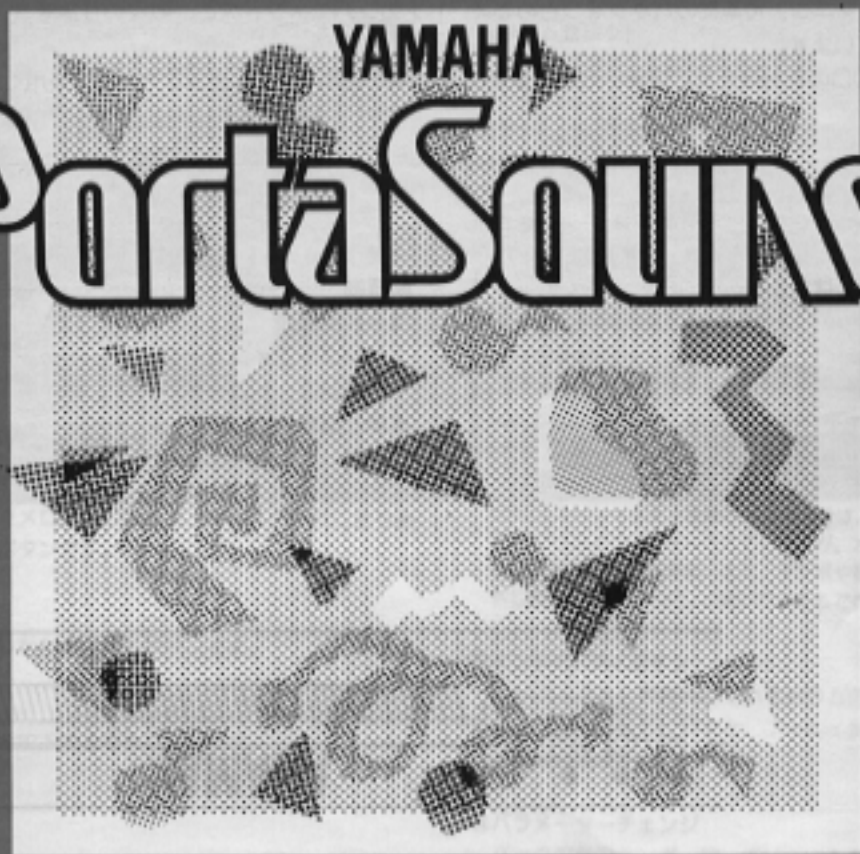


YAMAHA

PortaSound



VSS-200

取扱説明書・保証書

DIGITAL VOICE SAMPLER

ごあいさつ

このたびはヤマハVSS-200をお買い上げいただきましてありがとうございます。

VSS-200は、ヤマハが世界に誇る先進のデジタル技術から誕生した、どなたにも手軽に楽しんでいただける多機能なポータブルキーボードです。

さまざまな音を音源にして演奏ができるボイスサンプラーに加え、サンプル音のエディット、100音色のボイスバンク、さらにはマニュアル演奏のバックをつとめるオートアカンパニメントなど、数々の性能をコンパクトなボディにおさめています。

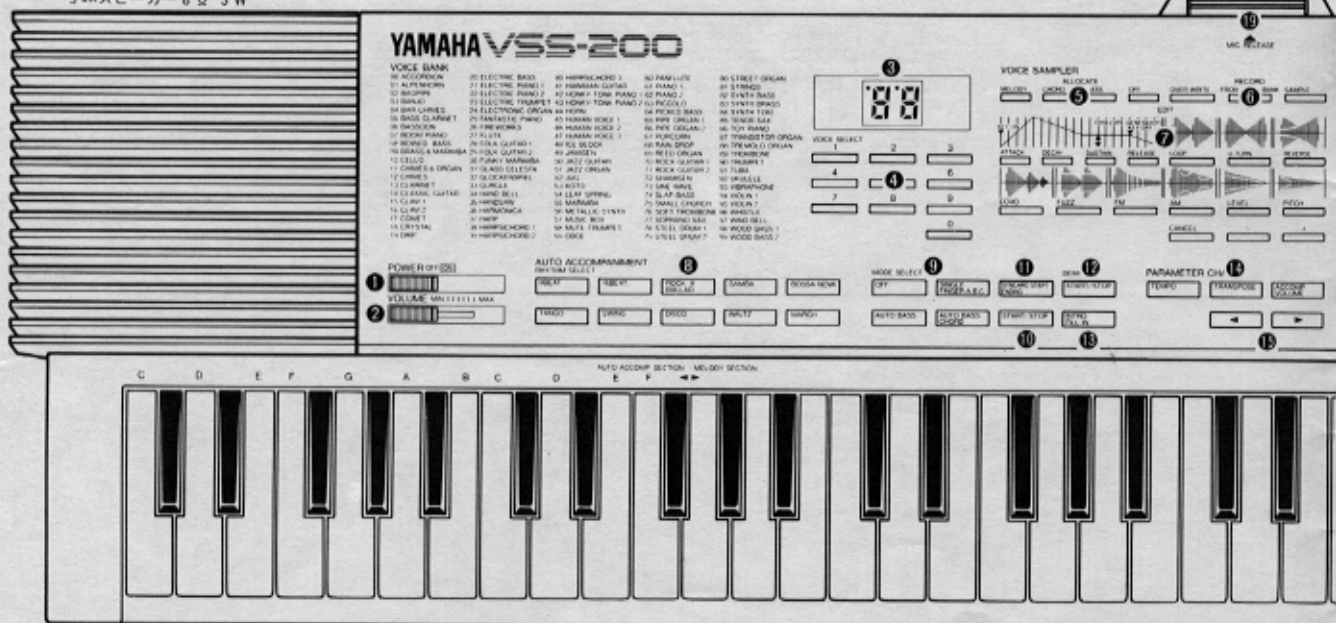
このVSS-200の魅力を充分ご理解いただけますよう、本書の説明をよくお読みになってご使用ください。

もくじ

各部の名称とそのはたらき	ページ	練習曲	ページ
ご使用の前に	2	コード早見表	12
ボイスバンク	3	シングルフィンガーコード	13
ボイスサンプラー	4	フィンガードコード	13-14
リズム	8	故障と誤りやすい現象	15
自動伴奏	9	仕様	16



9cmスピーカー 8Ω 3W



YAMAHA VSS-200

VOICE BANK	20 ELECTRIC BASS	40 HARP/CHORD 2	60 PIANO/LUTE	80 STRING
01 ALPHEON	21 ELECTRIC PIANO 2	41 HARMONICA GUITAR	61 PIANO 1	81 STRIKE
02 BASSIN	22 ELECTRIC PIANO 1	42 HORN/TOP PIANO 2	62 PIANO 2	82 STRIKE BASS
03 BASS 2	23 ELECTRIC ORGAN 40 VIBR	43 HORN/TOP PIANO 1	63 PIANO 3	83 SYNTH BRASS
04 BASS CLARINET	24 ELECTRIC ORGAN 40 VIBR	44 HUMAN VOICE 1	64 PIANO 4	84 SYNTH TRUMP
05 BRASS	25 ELECTRIC ORGAN 40 VIBR	45 HUMAN VOICE 2	65 PIANO 5	85 SYNTH TROM
06 BRASS CLARINET	26 ELECTRIC ORGAN 40 VIBR	46 HUMAN VOICE 3	66 PIANO 6	86 SYNTH TROM
07 BRASS PIANO	27 ELECTRIC ORGAN 40 VIBR	47 HUMAN VOICE 4	67 PIANO 7	87 SYNTH TROM
08 BRASS PIANO 2	28 ELECTRIC ORGAN 40 VIBR	48 HUMAN VOICE 5	68 PIANO 8	88 SYNTH TROM
09 BRASS PIANO 3	29 ELECTRIC ORGAN 40 VIBR	49 HUMAN VOICE 6	69 PIANO 9	89 SYNTH TROM
10 BRASS PIANO 4	30 ELECTRIC ORGAN 40 VIBR	50 HUMAN VOICE 7	70 PIANO 10	90 SYNTH TROM
11 BRASS PIANO 5	31 ELECTRIC ORGAN 40 VIBR	51 HUMAN VOICE 8	71 PIANO 11	91 SYNTH TROM
12 BRASS PIANO 6	32 ELECTRIC ORGAN 40 VIBR	52 HUMAN VOICE 9	72 PIANO 12	92 SYNTH TROM
13 BRASS PIANO 7	33 ELECTRIC ORGAN 40 VIBR	53 HUMAN VOICE 10	73 PIANO 13	93 SYNTH TROM
14 BRASS PIANO 8	34 ELECTRIC ORGAN 40 VIBR	54 HUMAN VOICE 11	74 PIANO 14	94 SYNTH TROM
15 BRASS PIANO 9	35 ELECTRIC ORGAN 40 VIBR	55 HUMAN VOICE 12	75 PIANO 15	95 SYNTH TROM
16 BRASS PIANO 10	36 ELECTRIC ORGAN 40 VIBR	56 HUMAN VOICE 13	76 PIANO 16	96 SYNTH TROM
17 BRASS PIANO 11	37 ELECTRIC ORGAN 40 VIBR	57 HUMAN VOICE 14	77 PIANO 17	97 SYNTH TROM
18 BRASS PIANO 12	38 ELECTRIC ORGAN 40 VIBR	58 HUMAN VOICE 15	78 PIANO 18	98 SYNTH TROM
19 BRASS PIANO 13	39 ELECTRIC ORGAN 40 VIBR	59 HUMAN VOICE 16	79 PIANO 19	99 SYNTH TROM
20 BRASS PIANO 14	40 ELECTRIC ORGAN 40 VIBR	60 HUMAN VOICE 17	80 PIANO 20	100 SYNTH TROM

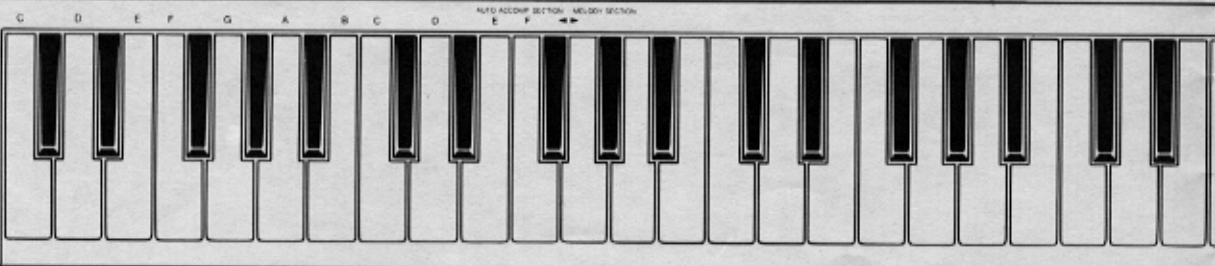
POWER OFF (OFF) 1 VOLUME (MIN/111/111 MAX) 2

AUTO ACCOMPANIMENT (OFF/ON) 3

MODE SELECT (OFF) 4

VOICE SAMPLER (RECORD/PLAY) 5

PARAMETER CH (TUNE) 6



部 の名称とそのはたらき

① パワースイッチ

電源を入れるスイッチです。ディスプレイが点灯すれば電気が通じています。

② マスターボリューム

全体の音量を調節するレバーです。

③ ディスプレイ

音色ナンバーやテンポ、エディットの内容などを表示します。

ボイスバンク (3ページ)

④ ボイスセレクト

ボイスバンクの音色を選ぶボタンです。

ボイスサンプラー (4~7, 11ページ)

⑤ アロケート

サンプリング音をメロディ、コード、ベースのどれに割りあてるかを定めるボタンです。

⑥ レコード

サンプリングのしかたを決めるボタンです。

⑦ エディット

サンプリング音を加工するセクションです。

オートアカンパニメント (8~10ページ)

⑧ リズムセレクト

リズムパターンを選ぶボタンです。

⑨ モードセレクト

演奏のしかたを選ぶボタンです。

⑩ スタート/ストップ

バック演奏を開始、停止させるボタンです。

⑪ シンクロスタート/エンディング

バック演奏をマニュアル演奏とともに始めたり、エンディングとともに停止させるボタンです。

⑫ デモ スタート/ストップ

デモ演奏を開始、停止させるボタンです。

デモンストレーション演奏のメロディ音は、曲の進行に合わせて音色が変わるようにセットされていますが、ボイスバンクの音色に切り替えることもできます。また、テンポや音色を変えたり、レコードした音をアロケートして楽しむこともできます。

⑬ イントロ/フィルイン

各リズムごとに用意されているドラムのオカズを入れるボタンです。曲の始めに押すと、フィルインに続けてバック演奏が開始されます。

⑭ パラメーターチェンジ

バック演奏のテンポ、調、ボリュームを変える時に、それぞれのボタンを押します。

⑮ アップダウンボタン

パラメーター値をじっさいに変えるボタンです。

接続端子ほか

⑯ DC-INジャック

外部電源を使用するとき、アダプターを接続します。

⑰ ヘッドホン/AUXアウト

ヘッドホンやアンプなどに接続します。

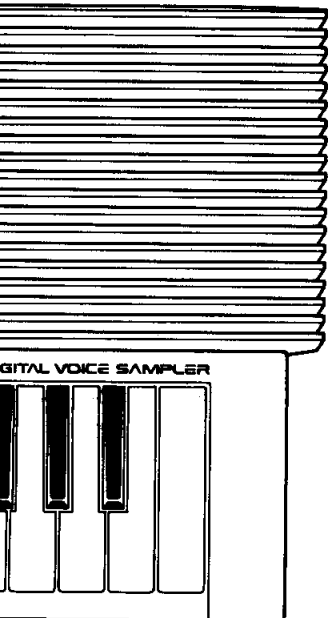
⑱ サンプルイン

テレビ、ラジオ、テープなど、ラインでサンプリングする時、ここへ接続します。

⑲ 付属マイク

サンプリング用のマイクです。

9cmスピーカー 8Ω 3W



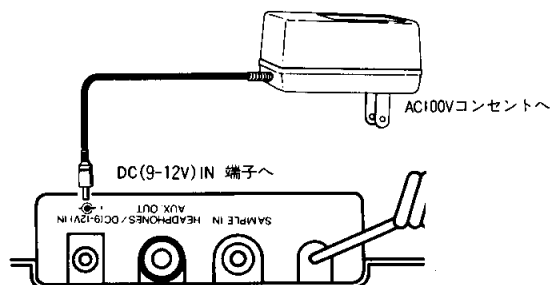
使用前に

必ずお読みください。また、ご使用いただくため、次のことにご注意ください。

電源について

VSS-200の電源には、電池もしくは通常の家庭用コンセントを使用することができます。

家庭用コンセントをご使用の際には、別売の専用アダプター、PA-3を接続してください。

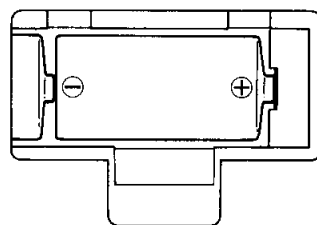


★PA-3以外のアダプターは使用しないでください。規格外のアダプターの使用は、誤動作や破損の原因となることがあります。

電池の入れ方

まず本体裏面にあるふたを取り、単2の乾電池を一行に6個入れます。この時プラスとマイナスの方向をまちがえないようにご注意ください。

パワースイッチを入れた時に、ディスプレイが暗かったり、音が出にくかったりした場合、電池がなくなりはじめていますので、すべての電池を交換してください。



取扱上の注意

- ①極端に温度が高い場所（60℃以上）に置いておくと本体に悪影響を与え、故障の原因となることがあります。暖房器具のそばに置いたり、日中、車内に長時間放置しておくことはさけてください。車の窓を閉めきっている時、直射日光が当たっていると、車内の温度は80℃以上にもなります。
- ②湿気の多い場所に置くことは、特にさけてください。
- ③過度な衝撃や無理な力を加えると、傷がついたり、故障の原因となることがあります。本体を落としたり、上に座ったりしないよう、ご注意ください。
- ④本体のお手入れは、乾いた布でからぶきするか、汚れのひどい場合には水で少し湿らせた布で拭いてください。アルコールやシンナー・ベンジン等の有機溶剤は絶対に使用しないでください。また、本体上に塩化ビニール系のものを長時間放置しておく、くっつく場合がありますのでご注意ください。
- ⑤ご使用後は必ず電源スイッチを切ってください。電源が入ったまま長時間放置しておくと、故障の原因となることがあります。また、長い間使わない時は、電池を本体から抜き、電源アダプターは外しておいてください。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。特に、夜間は小さな音でもよく通り、思わぬところに迷惑をかけてしまうことががちです。適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使うなど、お互いに心を配り快適な生活環境をまもりましょう。

ボイスバンク

M音種ならではのリアルボイスを100音色内蔵したボイスバンクです。

1. パワースイッチをONにしてください。

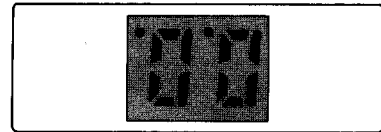
このときディスプレイは00を表示します。

POWER OFF ON

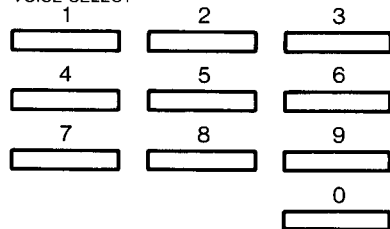


2. 本体のフロントパネルにプリントされているボイスバンクの、00～99から好きな音色を選んでください。

このとき、ボイスセレクトボタンで選んだ番号がディスプレイに表示されます。

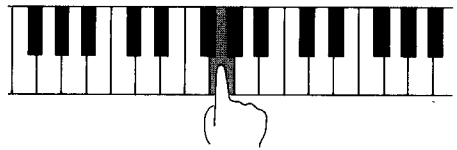


VOICE SELECT



ボイスナンバーは、2桁の数字で指定します。はじめに10の位、つぎに1の位の順番で指定してください。

3. 鍵盤をひきながらボリュームを調節します。



選んだ音色がでましたか？

VSS-200は100の音色をもっています。

いろいろな音色に変えてメロディをひいてみてください。

★同時に6音までの和音演奏ができます。ただしオートアカンパニメント使用時は、ベース1音、コード3音、メロディ2音というように割りふられます。

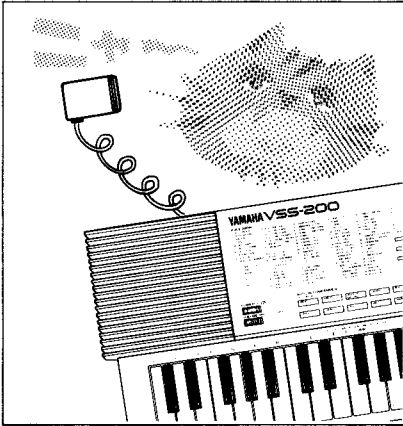
ボイスサンプラー

VSS-200は、人や動物の声、テレビやラジオの音など、日常のさまざまな音をデジタル録音することで、キーボード演奏の音源にすることができますが、それを「サンプリング」といいます。

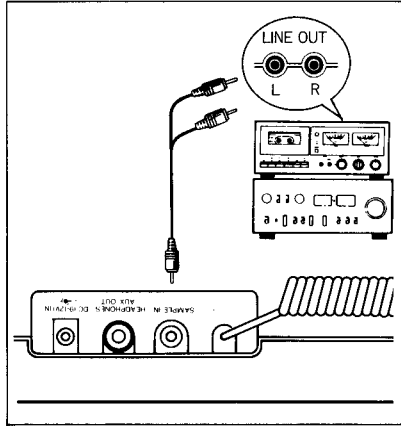
サンプリングの準備

VSS-200は、次の3つの方法でサンプリングすることができます。

付属マイク (図1)



ライン (図2)



フロムボイスバンク (図3)

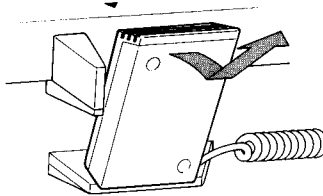


〈付属マイクを使用する場合〉

人や動物の声、物をたたいたり、落としたりしたときの音など、いわゆるナマの音をサンプリングする時の方法です。

※マイクは本体にセットされています。

- マイクを使用するときには、マイクの上部を後方へ押し、本体から外してください。コードは無理に引っばらないでください。



- 使用後は、マイク下部の穴を本体収納部の爪に入れてから前方に押し、収納してください。

※ライン接続されているときはマイクからのサンプリングはできません。

〈サンプリング音のプレイバック〉

サンプリング音のプレイバック (再生) には、アロケートという設定が関係します。

サンプリングを行なった直後は、サンプリング音は、G₂ 以上の鍵盤でのみ発音されます。

アロケートについての詳しいことは、オートアカンパニメントのページをご覧ください。

〈ラインを使用する場合〉

テレビやラジオの音声、もしくはテープからの音をサンプリングする時の方法です。

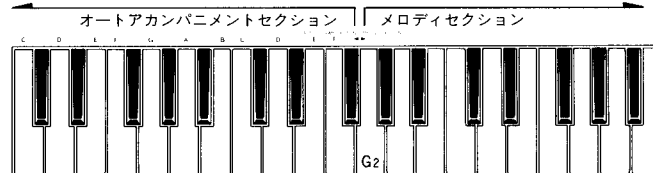
※上の図2のように、VSS-200のSAMPLE-INと、オーディオなどのLINE-OUTを接続します。

〈ボイスバンクからの場合〉

VSS-200のプリセットボイスは、そのままでは音色などを変えることができませんが、サンプリングをすることで、エディット (加工してつくりかえる) ことができます。

また、サンプリングすることで、アロケート機能により、好きな音色でアカンパニメント演奏させることができるようになります。

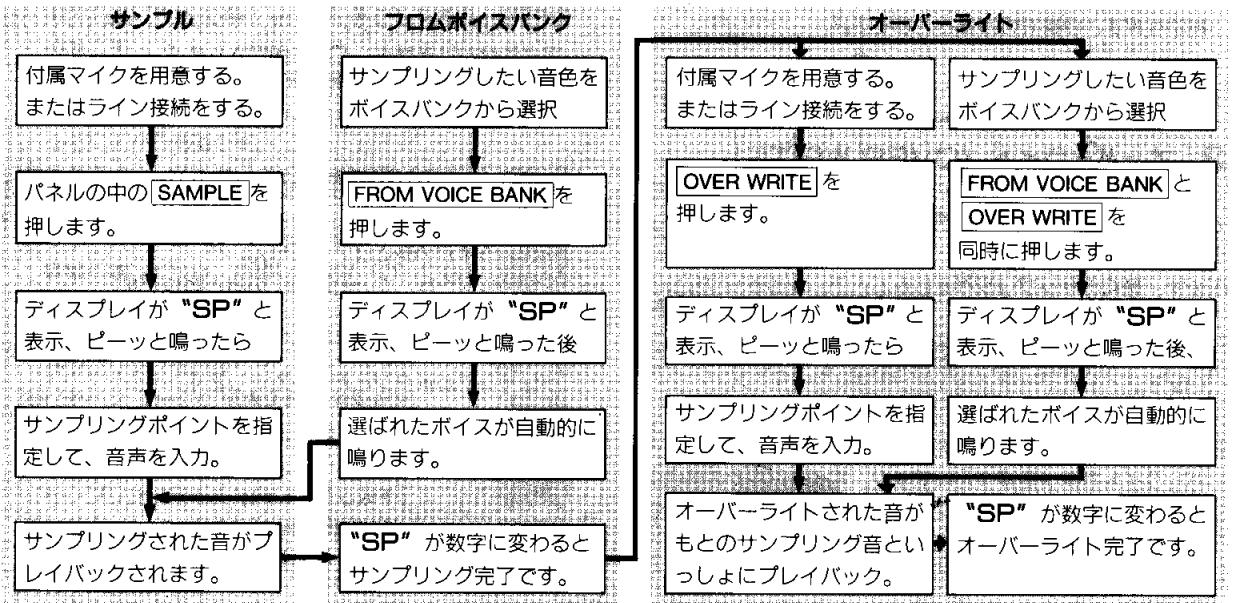
- サンプリングの直後は、G₂ 以上のメロディ鍵盤でのみ発音します。



※サンプリング音は同時に4音まで発音します。

サンプリングの手順とエディット

〈サンプリングの手順〉



VSS-200のサンプリングは大きく2つに分けられます。

1. 付属マイクもしくはラインによるサンプリング……サンプルボタンで操作します。
2. 内蔵のFMボイスバンクから行うサンプリング……fromボイスバンクボタンで操作します。

※ボイスサンプラーのレコードセクションには、この他にオーバーライトというボタンがありますが、それについては、あとでご説明します。

それぞれの操作のしかたを見ていきましょう。ただし、上の図中の内容と重複する事柄については説明を省かせていただきます。

1. サンプル (SAMPLE)

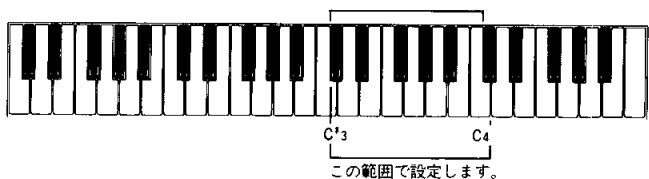
(1)マイクまたはライン送りの用意ができましたら、レコードセクションのサンプルボタンを押してください。

(2)ディスプレイの表示が、「SP」に変わり、ピーツという音が流れます。この時VSS-200は音声が入力されるのを待っていますので、何か音を入力してみてください。うまく再生されましたか？

もし何の音もしないようでしたら、それは入力した音量が小さかったためですから、もう一度大きい音で入力しなおしてみてください。

※上の図中、サンプリングポイントという言葉が出てきますが、これは、入力した音を、入力した音程で再生する鍵盤のことをいいます。

(2)でVSS-200が、音が入力されるのを待っている時にこれを設定することで、録音再生時間を約2倍にすることもできます。



設定をしない時のサンプリングポイントはC4ですが、VSS-200が入力を待っている時に、C³からC⁴までのいずれかの鍵盤を弾くことで、サンプリングポイントがその鍵盤に移り、もっとも長いC³で約3.6秒間のサンプリングタイム（録音再生時間）となります。

(C⁴の場合は、約1.9秒間です。)

※なお、トランスポーズを実施したときには、トランスポーズされた音の分、指定のキーが移動します。

(3)いかがですか？

まずはいろいろな音をサンプリングしてみてください。

2. フロムボイスバンク(FROM VOICE BANK)

(1)ボイスバンクから、サンプリングしたい音色を選んでください。

手順は、ボイスセレクトボタンで、ボイスバンクの2ケタの数字を押す、今までの方法と同じです。

(2)レコードセクションのフロムボイスバンクボタンを押してください。

この時の状態は、1. サンプル の場合と同じですが、ボイスバンクからのサンプリングでは、サンプリングポイントの設定は受け付けません。C4に固定されます。

3. オーバーライト (OVER WRITE)

オーバーライトとは、1. サンプル、2. フロムボイスバンクで、すでにサンプリングされた音の上に、さらにかさねてサンプリングをすることです。

(1)まず、最初のサンプリングをしたあとで、次のサンプリングの用意をします。

例えば、マイクからラインに変えるときは、ライン接続を行います。

(2)マイクまたはラインによるオーバーライトをする時は、オーバーライトボタンを押すだけですが、ボイスバンクの音色をオーバーライトする場合には、オーバーライトボタンとフロムボイスバンクボタンを同時に押します。

(3)サンプリングポイントの設定は、マイクまたはラインによるオーバーライトの時にはできますが、ボイスバンクからのオーバーライトの時にはできません。

設定のしかたは、1. サンプル の時と同じです。

※何もサンプリングされていない時には、オーバーライトボタンはサンプルボタンと同じ役割をします。

★オーバーライトの応用

その1：大歓声をつくる／

- (1)サンプルボタンを押して、マイクから拍手と歓声を入れます。
- (2)オーバーライトボタンを押して同じことをします。



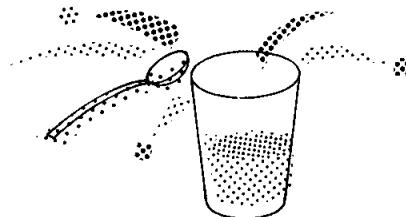
(3)2を10回ほどくりかえしますが、この時にサンプリングポイントをてきとうに変えましょう。



(4)鍵盤を同時に何鍵か押さえてみてください。
なかなかの歓声になったでしょう？

その2：FMボイスをパワフルに／

- 用意するもの：コップとスプーン
- (1)内蔵のFMボイスから、93のビブラフォンを選んでください。
 - (2)フロムボイスバンクボタンを押してサンプリングしましょう。
 - (3)コップをたたいて、その音に近いサンプリングポイントをさがしましょう。
コップに水を入れて調節すると、うまくさがせます。



- (4)だいたい音が合ったら、オーバーライトボタンを押してサンプリングポイントを設定します。
- (5)ひずまないでいかに大きな音で、コップをたたいてください。
- (6)いかがですか？リアルなFMボイスが、さらに美しく、澄んだ音になったと思います。

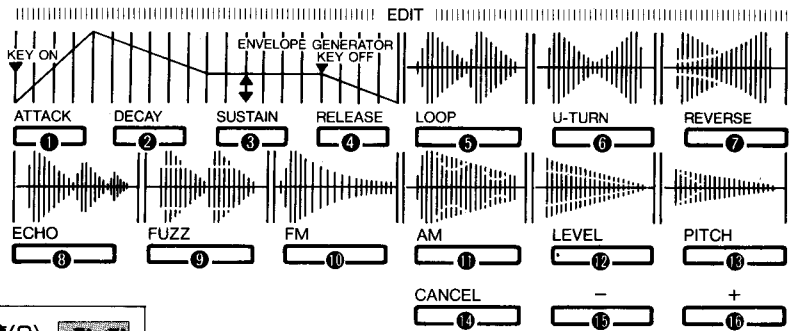
※ご紹介したサンプリングやオーバーライトは、ほんの一例です。
サンプリングによる音源づくりは、みなさんのアイデア次第です。
ふだん聞きすごしている生活音の中にも、素晴らしいサウンドの素材がきっと見つかることでしょう。

それでは次に、さまざまな工夫をして得られたサンプリング音を、いろいろと加工してみましょう。

(これをエディットといいます)

〈サンプリング音のエディット〉

エディットは、①～⑬のボタンで行います。



①アタックタイム (0～7の8段階変更可) 初期値(0)
鍵盤を弾いてから、最大レベルに達するまでの時間です。



②ディケイタイム (0～7の8段階変更可) 初期値(0)
最大レベルから、サステインレベル(定常状態)までに下がる時間です。



③サステインレベル (0～7の8段階変更可) 初期値(7)
鍵盤を弾いているあいだ、保たれる音量です。



④リリースタイム (0～7の8段階変更可) 初期値(0)
鍵盤を離してから、音量レベルが(0)になるまでの時間です。



⑤ループ (0～9の10段階変更可) 初期値(9)
サンプリング音を繰り返し再生します。



⑥Uターン (0～9の10段階変更可) 初期値(9)
サンプリング音を往復再生します。



⑦リバース (ON/OFFのみ)

サンプリング音を逆方向に再生します。



⑧エコー (0～9の10段階変更可) 初期値(9)
サンプリング音のレベルを小さくしながら、繰り返し再生します。



⑨ファズ (ON/OFFのみ)

サンプリング音に歪みを与えます。



⑩FM (0～7の8段階変更可) 初期値(5)

サンプリング音の音量を周期的に変えます。



⑪AM (0～7の8段階変更可) 初期値(5)

サンプリング音の音程を周期的に変えます。



⑫レベル (0～5の6段階変更可) 初期値(4)

サンプリング音の音量を調節します。



⑬ピッチ (-8～7の16段階変更可) 初期値(0)

最大±50セント(半音の1/2)の範囲で、サンプリング音の音程を調節します。

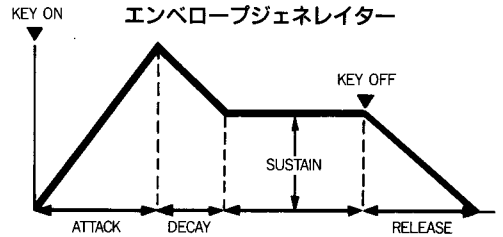


⑭キャンセル

①～⑬のエディットをすべて取り消して、元のサンプリング音に戻します。

⑮⑯データエントリー (-) (+)

各パラメーターの効果の深さを設定します。



★エディットの手順

さきほどの“大歓声”をエディットしてみましょう。やはり大歓声というからには、延々とつづいてほしいものです。そこで、

1. ループボタンを押します。

LOOP



この時ディスプレイにはL9と表示されますから、データエントリーボタンで、くりかえしの周期を設定します。



あるいは、もっと人数感がほしい場合ならば、

2. エコーボタンを押します。

ECHO



この時ディスプレイにはE9と表示されますから、データエントリーボタンで、くりかえしの長さを設定します。



なかなかいい雰囲気ですが、音の出だしに雑音がいって気になります。アタックを遅くしてみましょう。

ATTACK



①～④⑬は、ボタンを押してパラメーターを呼び出し、設定値を変更します。ここでは〈初期値〉は、サンプリング直後に自動的に設定される値です。

⑤～⑩は、ボタンを押すとONになり、もう一度押すとOFFになります。ディスプレイにoFと表示されます。ONのときに⑮⑯で設定値を変更できます。ここでは〈初期値〉は、各パラメーターをONにしたときに設定される値です。

⑩⑪の数字は共通となっていますので、別々の数値を設定することはできません。

雑音も聞こえなくなり、加えてフェードインの感じもあります。エディットによって、もっとそれらしい歓声になりました。

※ディスプレイに表示されるL9やE9などは、それぞれのパラメーターの初期値です。この値をデータエントリーボタンで変更することによって、エディットを進めていきます。

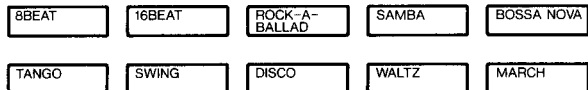
※すべての設定を一度に解除する場合には、キャンセルボタンを押してください。



SS-200には、自動伴奏機能が組み込まれています。まず、演奏にリズムを加えてみましょう。

①10種類の中からリズムを選んでください。

AUTO ACCOMPANIMENT
RHYTHM SELECT



※パワースイッチをONにした時には、自動的に8BEATが選ばれます。

②スタート/ストップボタンでリズムをスタートさせてください。

①で選んだリズムが鳴りだします。



③リズムを止めるときは、再びスタート/ストップボタンを押してください。

※リズムパターンは、2小節単位で構成されています。



※LEDディスプレイ内の2つのドットは、リズムに合わせて、上図のように点灯します。

次に、弾く曲に合わせてリズムのテンポを変えてみましょう。リズムが鳴っているとき、止まっているときのどちらでも、テンポを変更することができます。

①電源を入れると、テンポは自動的に<0>に設定されます。<0>以外のテンポにしたいときは、まず、パラメーターチェンジのテンポのボタンを押してください。

②<◀><▶>ボタンでテンポを調整します。テンポの速さは、(19)~(-19)の範囲で選べます。

PARAMETER CHANGE



※各設定値に対する速さを表にまとめると、次のようになります。

設定値	速さ (j=)	設定値	速さ (j=)	設定値	速さ (j=)
+19	264	+6	160	-7	92
+18	256	+5	152	-8	88
+17	248	+4	144	-9	84
+16	240	+3	138	-10	80
+15	232	+2	132	-11	76
+14	224	+1	126	-12	72
+13	216	0	120	-13	69
+12	208	-1	116	-14	66
+11	200	-2	112	-15	63
+10	192	-3	108	-16	60
+9	184	-4	104	-17	58
+8	176	-5	100	-18	56
+7	168	-6	96	-19	54

シンクロスタート/エンディング

リズムをスタートさせるときに、シンクロスタート/エンディングボタンを使うと、押鍵と同時にリズムをスタートさせることができます。

①リズムを選びます。

②シンクロスタート/エンディングボタンを押してください。

③押鍵と同時にリズムがスタートします。

④リズムをスタートさせた後で、シンクロスタート/エンディングボタンを押すと、2小節のエンディングフレーズを発音後、リズムが停止します。

※シンクロスタンバイの状態になると、LEDディスプレイ内のドットが点滅します。解除したいときは、もう一度、シンクロスタート/エンディングボタンを押してください。

モードがOFF以外の時は、F*2以下の鍵盤を押さないとリズムがスタートしません。

イントロ/フィルイン



〈イントロ〉

リズムが停止した状態で、イントロ/フィルインボタンを押すと、1小節のフィルインを頭に、リズムがスタートします。

〈フィルイン〉

リズムをスタートさせた状態で、イントロ/フィルインボタンを押すと、変則的なリズムのパターンが、次の小節の頭まで入ります。

リズムおよび自動伴奏の音量調節

マニュアル演奏の音量を変えずに、リズムおよび自動伴奏の音量を変えることができます。

①パラメーターチェンジのアカンパニメントボリュームボタンを押してください。

②次に、<◀><▶>ボタンで音量を調節します。電源を入れると、自動的に<4>になるように設定されています。<0>~<5>の範囲で調節してください。

PARAMETER CHANGE



自動伴奏

SS-200には、3種類の自動伴奏機能があります。最初に、プリセットされた音色をそのまま使ってプレイする自動伴奏について説明します。

シングルフィンガー オートベースコード

コードを全部押さえなくても、簡単に自動伴奏をさせることができる機能です。たとえば、メジャーコードなら指一本、その他のコードでも2、3鍵押さえるだけでOKです。

シングルフィンガー オートベースコードは、ドラム音、コード音、ベース音から成り立っている自動伴奏です。リズムによって、楽器の編成、音量、パターンが異なります。また、自動伴奏の指定鍵域は、F[#]2以下です。

①ボイスバンクの中から、メロディに使う音色を選びます。

②リズムを選びます。

③シングルフィンガー オートベースコードボタンを押します。



④シンクロスタート/エンディングボタンまたはスタート/ストップボタンを押します。スタート/ストップボタンを押した場合は、この時点でドラム音が鳴りだします。

⑤曲のコード進行に合わせて、F[#]2より下の鍵盤を押さえてみましょう。鍵盤を押さえると、自動伴奏が始まります。また、G₂以上の鍵域で同時に2音までのメロディ音をのせることができます。

⑥演奏を終了させたいときには、シンクロスタート/エンディングボタンまたはスタート/ストップボタンを押して、自動伴奏を終了させます。

シンクロスタート/エンディングボタンを押した場合は、エンディングのフレーズの後、リズムが止まります。

シングルフィンガーコードについて

次の図は、オートベースコード用鍵盤をおす位置と、でてる和音の関係を示したものです。

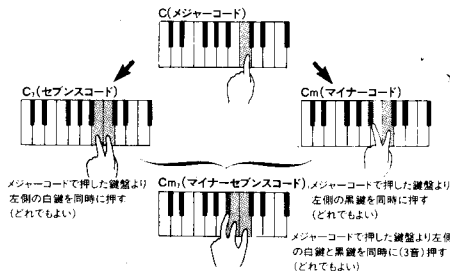


#、bのついているコードの出し方
#がついていたら、上の図で説明した位置の右の上の黒鍵、bがついていたら左上の黒鍵をおせば、#・bのついたコードがだせます。



セブンスコード、マイナーコードの出し方

アルファベット1文字のコード (G、Dなど) をメジャーコードといいますが、伴奏はメジャーコードだけとは限りません。例えば (G₇) のようなセブンスコード、(A_m) のようなマイナーコードもよく使われます。これらも、下図のように、2つの鍵盤を同時に押すことで出すことができます。



詳しくは、13ページの一覧表をご覧ください。

オートベースコード

普通にコードを押さえて自動伴奏をさせる機能です。コード演奏になれている人や、シングルフィンガー オートベースコードのコードだけでは演奏できない曲に向いています。自動伴奏の内容は、シングルフィンガー オートベースコードの場合と同じです。

①ボイスバンクの中から、メロディに使う音色を選びます。

②リズムを選びます。

③オートベースコードボタンを押します。



④シンクロスタート/エンディングボタンまたはスタート/ストップボタンを押します。

⑤曲のコード進行に合わせて、F[#]2より下の鍵盤を押さえてみましょう。コードを押さえると、押さえたコードに基づいた自動伴奏が鳴りだします。

この時、G₂以上の鍵域で、同時に2音までのメロディ音をのせることができます。

⑥演奏を終了させたいときには、シンクロスタート/エンディングボタンまたはスタート/ストップボタンを押して、自動伴奏を終了させます。

オートベース

普通にコードを押さえてドラム音とベース音による自動伴奏をさせる機能です。

コード音の発音は押鍵の通りとなります。

①ボイスバンクの中から、メロディに使う音色を選びます。

②リズムを選びます。

③オートベースボタンを押します。

AUTO BASS

④シンクロスタート/エンディングボタンまたはスタート/ストップボタンを押します。

⑤曲のコード進行に合わせて、F[#]2より下の鍵盤を押さえてみましょう。検出可能なコードを押さえると、ベースパターンが始まります。また、鍵盤を押さえたおりに、コード音を発音(3音まで)します。G₂以上の鍵域で同時に2音までのメロディ音をのせることができます。

⑥演奏を終了させたいときには、シンクロスタート/エンディングボタンまたはスタート/ストップボタンを押して、自動伴奏を終了させます。

トランスポーズ

トランスポーズ機能によって、鍵盤を押さえた音と実際に発音される音の発音ピッチを変えることができます。たとえば、他の楽器とアンサンブルを楽しんだり、唄の伴奏をするときに、弾き方を変えずに移調できるので、とても便利です。また、鍵盤の最低音より低い音や最高音より高い音を使いたいときに役立ちます。

①トランスポーズボタンを押します。

②(◀)、(▶) ボタンを押してトランスポーズを行ってください。変えられる範囲は、(0)を基準として、(-5(-5半音))~(6(6半音))です。一例を上げると、値を(-5)にした場合、5半音低い音がでます。つまり、八長調の曲を弾くと、5半音低い音がでてト長調に移調されます。

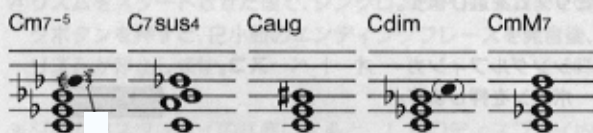
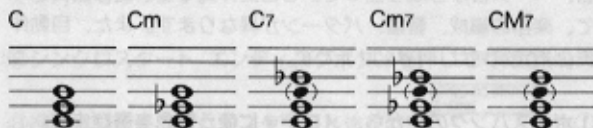
PARAMETER CHANGE

TEMPO TRANSPOSE ACCOMP. VOLUME



オートベースコードとオートベースに共通する検出可能なコードの種類は、次の通りです。

(例) Cコードの場合



(●) 内の音は弾かずに省略しても検出されます。詳しくは、14ページの一覧表をご覧ください。

*自動伴奏のときに、テンポ変更やトランスポーズ、フィルインなど、各種の機能を併用することができます。

*ただし、ボイスサンプラーでレコードした音はF₂からC₆までの音域しか発音されません。発音域外になる音は、発音域の両端で折り返され、押鍵のオクターブ下または上の音が出ます。

テンポ、トランスポーズ、アカンパニメントボリュームを設定する時に、(◀)、(▶) ボタンを同時に押すと、それぞれの初期設定値に戻ります。

- テンポ、トランスポーズ.....0
- アカンパニメントボリューム.....4

次に、(◀)、(▶) ボタンで音量を調節します。電源で入れると初期設定値に戻ります。

PARAMETER CHANGE

TEMPO TRANSPOSE ACCOMP. VOLUME

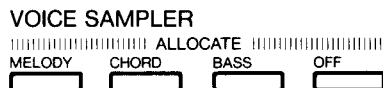
.....4

次に、サンプリングでレコードした音色と自動伴奏機能を組み合わせてプレイする場合について説明しましょう。

レコードされた音をメロディ、コード、ベースのどこに割り当てる（アロケート）かによって、発音数や発音のしかたが異なります。

アロケートについて

アロケートには、次の4つのボタンがあります。



オフ

文字通りレコードした音を、どこにも割り当てないときに使います。電源を入ると、アロケートは、自動的にオフに設定されます。

コード

自動伴奏のコード音にレコードした音を割り当てたいときに使います。自動伴奏OFFの場合はF^{#2}より下の鍵域でサンプル音を発音します。

メロディ

G₂より上の鍵域にレコードした音を割り当てたいときに使います。この時F^{#2}以下の音は、通常より1オクターブ高い音で発音します。サンプリングをした直後は、自動的にこのモードに設定されます。

ベース

自動伴奏のベース音にレコードした音を割り当てたいときに使います。自動伴奏OFFの場合は、サンプル音はどこにも割り当てられません。

自動伴奏のモードとレコードした音のアロケートの組合せによる発音数を表にまとめると、下図のようになります。

モード	アロケート	発音数
ABC	オフ	G ₂ より上の鍵域でボイスバンクの音色を2音まで同時発音可
オートベース	オフ	G ₂ より上の鍵域でボイスバンクの音色を2音まで同時発音可
オフ	オフ	全鍵域でボイスバンクの音色を6音まで同時発音可
ABC	メロディ	G ₂ より上の鍵域でレコードした音色を4音まで同時発音可
オートベース	メロディ	G ₂ より上の鍵域でレコードした音色を4音まで同時発音可
オフ	メロディ	G ₂ より上の鍵域でレコードした音色を4音まで同時発音可 F ^{#2} より下の鍵域でボイスバンクの音色を6音まで同時発音可
ABC	コード	G ₂ より上の鍵域でボイスバンクの音色を5音まで同時発音可
オートベース	コード	G ₂ より上の鍵域でボイスバンクの音色を5音まで同時発音可
オフ	コード	G ₂ より上の鍵域でボイスバンクの音色を6音まで同時発音可 F ^{#2} より下の鍵域でレコードした音色を4音まで同時発音可
ABC	ベース	G ₂ より上の鍵域でボイスバンクの音色を3音まで同時発音可
オートベース	ベース	G ₂ より上の鍵域でボイスバンクの音色を3音まで同時発音可
オフ	ベース	全鍵域でボイスバンクの音色を6音まで同時発音可

※〈ABC〉とは、オートベースコードとシングルフィンガーオートベースコードの両モードの略称です。

※サンプル音とFM音のミックス音は、単一の押鍵では発音されません。

※レコードした音は先着優先（先に押した鍵盤の音を優先して発音）、ボイスバンクの音色は後着優先（後から押した鍵盤の音を優先して発音）となります。

※アロケートをいずれに指定した場合でもボイスバンクの音色を変更すると、アロケートされたサンプル音は、そのままかわらずに、ボイスバンク部分の音色が変更になります。

「ラブ・ミー・テンダー」を弾いてみましょう。

- ①(ロックバラード)のリズムを選びます。
- ②テンポを(-15)にセットしてください。
- ③モードは(シングルフィンガー オートベースコード)に。
- ④メロディの音色にボイスバンクの(45)〈ヒューマンボイス1〉を選んでください。
- ⑤シンクロスタート/エンディングボタンを押して、演奏を始めてください。

ラブ・ミー・テンダー























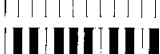

























作詞・作曲 E.Presley & V.Matson

★シングルフィンガーコードのおさえ方

日本音楽著作権協会(出)許諾第8762374-701号
 ©1956 by ELVIS PRESLEY Music, INC.
 Rights for Japan assigned to CHAPPEL/INTERSONG K.K.

























※上記のモードや音色は一例です。モードや音色を変えて弾いてみたり、レコードした音をメロディ、コード、ベースにアロケートして演奏してみましょう。

シングルフィンガーコード

メジャーコード	マイナーコード
C 	Cm 
D [♯] (C [♯]) 	D [♯] m (C [♯] m) 
D 	Dm 
E [♯] (D [♯]) 	E [♯] m (D [♯] m) 
E 	Em 
F 	Fm 
F [♯] (G [♯]) 	F [♯] m (G [♯] m) 
G 	Gm 
A [♯] (G [♯]) 	A [♯] m (G [♯] m) 
A 	Am 
B [♯] (A [♯]) 	B [♯] m (A [♯] m) 
B 	Bm 
セブンスコード	マイナーセブンスコード
C ₇ 	Cm ₇ 
D [♯] ₇ (C [♯] ₇) 	D [♯] m ₇ (C [♯] m ₇) 
D ₇ 	Dm ₇ 
E [♯] ₇ (D [♯] ₇) 	E [♯] m ₇ (D [♯] m ₇) 
E ₇ 	Em ₇ 
F ₇ 	Fm ₇ 
F [♯] ₇ (G [♯] ₇) 	F [♯] m ₇ (G [♯] m ₇) 
G ₇ 	Gm ₇ 
A [♯] ₇ (G [♯] ₇) 	A [♯] m ₇ (G [♯] m ₇) 
A ₇ 	Am ₇ 
B [♯] ₇ (A [♯] ₇) 	B [♯] m ₇ (A [♯] m ₇) 
B ₇ 	Bm ₇ 

フィンガードコード

※は転回型
他は基本型です。

メジャーコード	マイナーコード
C 	Cm 
D [♯] (C [♯]) 	D [♯] m (C [♯] m) 
D 	Dm 
E [♯] (D [♯]) 	E [♯] m (D [♯] m) 
E 	Em 
F 	Fm 
F [♯] (G [♯]) 	F [♯] m (G [♯] m) 
G 	Gm 
A [♯] (G [♯]) 	A [♯] m (G [♯] m) 
A 	Am 
B [♯] (A [♯]) 	B [♯] m (A [♯] m) 
B 	Bm 

セブンスコード

C7

D^b7
(C[#]7)

D7

E^b7
(D[#]7)

E7

F7

F[#]7
(G^b7)

G7

A^b7
(G[#]7)

* A7

* B^b7
(A[#]7)

* B7

マイナーセブンスコード

Cm7

D^bm7
(C[#]m7)

Dm7

E^bm7
(D[#]m7)

Em7

Fm7

F[#]m7
(G^bm7)

Gm7

A^bm7
(G[#]m7)

* Am7

* B^bm7
(A[#]m7)

* Bm7

ディミニッシュコード

Cdim

D^bdim
(C[#]dim)

Ddim

E^bdim
(D[#]dim)

Edim

Fdim

F[#]dim
(G^bdim)

Gdim

A^bdim
(G[#]dim)

Adim

メジャーセブンスコード

Cmaj7

D^bmaj7
(C[#]maj7)

Dmaj7

E^bmaj7
(D[#]maj7)

E:maj7

F:maj7

F[#]maj7
(G^bmaj7)

G:maj7

* A^bmaj7
(G[#]maj7)

* Amaj7

* B^bmaj7
(A[#]maj7)

* B:maj7

オーギュメントコード

Caug

D^baug
(C[#]aug)

Daug

E^baug
(D[#]aug)

Eaug

Faug

F[#]aug
(G^baug)

Gaug

A^baug
(G[#]aug)

Aaug

B^baug
(A[#]aug)

マイナーセブンス
フラットファイブコード

Cm7⁻⁵

D^bm7⁻⁵
(C[#]m7⁻⁵)

Dm7⁻⁵

E^bm7⁻⁵
(D[#]m7⁻⁵)

Em7⁻⁵

Fm7⁻⁵

F[#]m7⁻⁵
(G^bm7⁻⁵)

Gm7⁻⁵

* Am7⁻⁵

* B^bm7⁻⁵
(A[#]m7⁻⁵)

* Bm7⁻⁵

セブンスサス・フォー
コード

C7sus4

D^b7sus4
(C[#]7sus4)

D7sus4

E^b7sus4
(D[#]7sus4)

E7sus4

F7sus4

F[#]7sus4
(G^b7sus4)

G7sus4

A^b7sus4
(G[#]7sus4)

* A7sus4

* B^b7sus4
(A[#]7sus4)

* B7sus4

マイナーメジャー
セブンスコード

CmM₇

D^bmM₇
(C[#]mM₇)

DmM₇

E^bmM₇
(D[#]mM₇)

EmM₇

FmM₇

F[#]mM₇
(G^bmM₇)

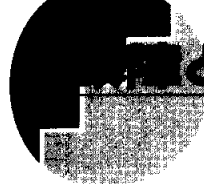
GmM₇

* A^bmM₇
(G[#]mM₇)

* AmM₇

* B^bmM₇
(A[#]mM₇)

* BmM₇

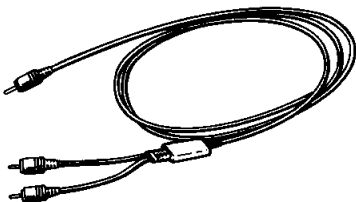


故障と誤りやすい現象

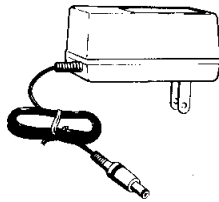
現象	原因	解決方法
パワースイッチを入れたときに、ポツンと音がする。	電気が流れたため。	ご心配いりません。
アロケートをオフにしてオートベースコードのモードにしたとき、G ₂ より上の鍵域で同時に3音押さえても2音しか鳴らない。	左記の設定の場合、G ₂ より上の鍵域では同時に2音までしか発音されません。	11ページの表を参考に発音数を確かめて、プレイする曲に合わせて、モードやアロケートを設定してください。
リズム音が出ない。	スタートボタンがどちらも押されていない。	8ページを読んで操作もれがないかどうか確認してください。
	シンクロスタートボタンを押したあと、F ₂ 以下のオートアカンパニメントボタン用鍵盤を押していないため。	
パラメーター値の表示が、ボイスバンクのナンバーの表示に自動的に切り替わってしまう。	ボタンを押して3秒後に表示が切り替わる機構になっています。	ご心配いりません。
サンプリングした音がすぐに1回再生されない。	音が小さくてセンサーが感知できなかったため。	もう一度音を大きくしてサンプリングしてください。
何度もオーバーライトしていたら、音が濁ってきた。	繰り返してオーバーライトすると音量が大きくなりすぎて、音がひずみます。	故障ではありませんので、ご心配いりません。

オプション(別売)のご紹介

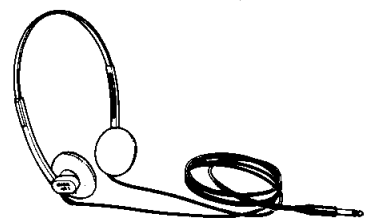
●分岐接続コード
(PC-2) ¥1,000



●電源アダプター
(PA-3) ¥2,000



●ステレオヘッドホン
(HPE-3) ¥3,000



●鍵盤数

ミニ鍵盤49鍵 (C1~C5)

●ボイスサンプラー

(アロケート)

メロディ、コード、ベース、オフ

(レコード)

オーバーライト、フロムボイスバンク、サンプル

(エディット)

キャンセル、アタック、ディケイ、サステイン、リリース

ループ、リターン、リバース、エコー、ファズ

フリークエンシーモジュレーション、レベル、ピッチ

アンプリチュードモジュレーション、-、+

●ボイスバンク

アコーディオン、アルペンホルン、バグパイプ

バンジョー、パーチャイム、バスクラリネット、バスーン

ブームピアノ、パウダーベース、プラス&マリンバ、チェロ

チャイム&オルガン、チャイム、クラリネット

クラシックギター、クラビ1、クラビ2、コメット

クリスタル、ドリップ、エレクトリックベース

エレクトリックピアノ1、エレクトリックピアノ2

エレクトリックトランペット、エレクトロニックオルガン

ファンタジックピアノ、ファイヤーワーク、フルート

フォークギター1、フォークギター2、ファンキーマリンバ

グラスチェレスタ、グロッケンシュピール、ガーグル

ハンドベル、ハンドソー、ハーモニカ、ハーブ

ハーブシコード1、ハーブシコード2、ハーブシコード3

ハワイアンギター、ホンキートンクピアノ1

ホンキートンクピアノ2、ホルン、ヒューマンボイス1

ヒューマンボイス2、ヒューマンボイス3、アイスブロック

ジャミセン、ジャズギター、ジャズオルガン、ジャグ、コト

リーフスプリング、マリンバ、メタリックシンセ

ミュージックボックス、ミュートトランペット、オーボエ

パンフルート、ピアノ1、ピアノ2、ピッコロ

ピクドベース、パイプオルガン1、パイプオルガン2

ポップコーン、レインドロップ、リードオルガン

ロックギター1、ロックギター2、シャミセン

サインウエーブ、スラップベース、スモールチャーチ

ソフトトロンボーン、ソプラノサククス、スチールドラム1

スチールドラム2、ストリートオルガン、ストリングス

シンセベース、シンセプラス、シンセタム、テナーサククス

トイピアノ、トランジスターオルガン、トレモロオルガン

トロンボーン、トランペット、チューバ、ウクレレ

ビブラフォン、バイオリン1、バイオリン2、ホイッスル

ウインドベル、ウッドベース1、ウッドベース2

●オートアカンパニメント

(リズム) 8ビート、16ビート、ロックバラード、サンバ

ボサノバ、タンゴ、スイング、ディスコ、ワルツ、マーチ

(モード)

オフ、シングルフィンガー オートベースコード

オートベース、オートベースコード

シンクロススタート/エンディング、スタート/ストップ

イントロ/フィルイン

●パラメーターチェンジ

テンポ、トランスポーズ、アカンパニメントボリューム

◀、▶

●その他

パワースイッチ、ボリューム、2桁LEDディスプレイ

デモンストレーションスタート/ストップ

●外部端子

HEADPHONES/AUX. OUT

SAMPLE IN, DC (9~12V) IN

●マイク

エレクトレット コンデンサーマイク

●音源

(ボイス&リズム) FM音源

(サンプリング) PCM音源

●アンプ

モノラル、2W

●スピーカー

9cm×2 (8Ω)

●定格電源

DC9~12V (単2乾電池6本、電源アダプターPA-3)

●消費電力

電源アダプター (PA-3) 使用時: 6.9W

乾電池使用時: 3.4W

●電池寿命 (デモ演奏時、VOL. MAX) 6時間以上

●寸法 (幅×奥行×高さ)

(全長)655×(全幅)257×(全高)77mm

●重量2.7kg

●外装材質

スチロール樹脂

●付属品

単2乾電池6本

※仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

サービスのご依頼は、お買い上げ店へお申し付けください。

- 本機の保証は、保証書により購入日から満1カ年です。尚、現金、クレジットなどによる保証の区別はいたしません。(日本国内のみ有効)
- 保証期間の1カ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か下記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。

■お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、直接お買い上げ店にご連絡ください。責任を持って修理調整をいたします。

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客さまにご迷惑をおかけしなさいませぬ。

YAMAHA 電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お預り窓口)

東京電音サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL.044-434-3100
新潟電音サービスステーション	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL.025-243-4321
大阪電音サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 TEL.06-877-5262
四国電音サービスステーション	〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ㈱高松店内 TEL.0878-51-7777、22-3045
名古屋電音サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ㈱名古屋流通センター TEL.052-652-2230
九州電音サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL.092-472-2134
北海道電音サービスセンター	〒065 札幌市東区本町1条9-3 TEL.011-781-3621
仙台電音サービスセンター	〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL.022-236-0249
広島電音サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 TEL.082-874-3787
浜松電音サービスセンター	〒435 浜松市上西町911 TEL.0534-65-6711
(本社)電音サービス部	〒435 浜松市上西町911 TEL.0534-65-1158

※住所および電話番号は変更になる場合があります。

本 社

シングルキーボード事業部 / 〒403 浜松市中沢町10-1
TEL.0534(60)3276

東京営業所 / 〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル
TEL.03(572)3130

東京特販営業所 / 〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル
TEL.03(572)3130

大阪営業所 / 〒542 大阪市南区南船場3-12-9 心斎橋アラザビル東館
TEL.06(252)7491

名古屋営業所 / 〒460 名古屋市中区錦1-18-28
TEL.052(201)5150

九州営業所 / 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL.092(472)2152

北海道営業所 / 〒064 札幌市中央区南十条西1-4 ヤマハセンター
TEL.011(512)6113

仙台営業所 / 〒980 仙台市大町2-2-10 住友生命仙台青葉通ビル
TEL.022(222)6141

広島営業所 / 〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
TEL.082(244)3740

YAMAHA
YAMAHA CORPORATION

ヤマハ株式会社

YAMAHA feelin' club



T4960693005934